

交通の要衝 瀬田橋とともに 発展した歴史文化

瀬田

瀬田南

瀬田東

瀬田北





交通の要衝 瀬田橋とともに発展した歴史文化



近江国衙跡(近江国庁跡)

旧石器時代～奈良時代

この地域は、西は琵琶湖と瀬田川、南は瀬田丘陵、東は草津市に接する、瀬田、瀬田南、瀬田東、瀬田北の各小学校区からなります。1889(明治22)年に市制・町村制がしかれた時に瀬田村となりました。以前は「勢多」「勢田」「世多」の字をつかう場合もありましたが、この時「瀬田」に統一されました。

旧石器時代と縄文時代の石器が発見された大池遺跡、縄文時代後期の善念寺貝塚があり、瀬田丘陵からは石鏃(石の矢じり)が見つかるなど、古くから人々が住んでいたことがわかります。古墳時代には、織部古墳、十禅師社古墳、若松神社境内古墳、横尾山古墳群などの古墳がつけられました。また、草津市にまたがる瀬田丘陵では、7世紀

後半の源内峠遺跡をはじめとする鉄を作った遺跡や、大津宮があった頃(7世紀後半)に寺院の屋根を飾る4基の鴟尾をつくった山ノ神遺跡が見つかっています。

瀬田川にかかるただ一本の橋であった瀬田橋(瀬田唐橋)は、陸上交通の重要な場所で、下流の供御瀬とともに、しばしば戦乱の舞台となりました。672年の壬申の乱では、大海人皇子軍と近江



↑ 古代の瀬田橋復元模型(滋賀県立琵琶湖博物館蔵)

朝廷軍との間で瀬田橋の周囲で大きな戦いがあり、勝利した大海人皇子はのちに天武天皇となりました。1987(昭和62)年からの発掘調査では、今の瀬田橋から80mほど下流の川底から、壬申の乱の頃の橋脚が見つかっています。

鎌倉時代後期から室町時代を描く軍記物語『太平記』には、瀬田橋にまつわる伝承として平安時代中期の武将である藤原秀郷(倭藤太)のムカデ退治の話が記されています。瀬田橋のたもとにある雲住寺や龍王宮秀郷社には、秀郷にゆかりの品や伝説が残されています。

8世紀中ごろから全国に、今の県庁や警察署、裁判所の機能をあわせた役所として「国府」が置かれました。近江国(現滋賀県)の国府は、一宮である建部大社の東にあり、国府の役所である国庁や、関連する遺跡として青江遺跡、惣山遺跡、中路遺跡、瀬田廃寺などが見つかりました。この地域が近江国の行政の中心であったことがわかります。なお、建部大社周辺の「神領」という地名は、建部大社の神様の領地であることに由来します。

瀬田川は、藤原京や平城京、東大寺を造営するため、大石や田上から伐り出された木材輸送のルートとしても利用されました。木材は、琵琶湖西岸の朽木(高島市)からも、安曇川と琵琶湖を通過して瀬田川へ運ばれました。陸上交通では、瀬田橋を渡り建部大社付近にあった勢多駅を通過して近江国府を北に抜ける道や、瀬田川にそって南下する田原道が奈良方面に通じていました。

平安時代には、天皇に魚介類を献上するために設けられた領地である「御厨」として、「勢多御厨」がありました。

平安時代～室町時代

平安時代から鎌倉時代にかけて、全国で荘園がひろがります。平安時代の初めには「勢多庄」があり、平安時代の終わりには「勢多御厨」から発展した「粟津橋本御厨」がありました。瀬田川をはさんで西岸が粟津、東岸が橋本です。「橋本」とは橋のたもと(そば)から生まれた地名で、まさに瀬田橋のすぐそばの地域ということの意味しています。

鎌倉時代には、九条家領の大江庄や延暦寺領の大江保がありました。「大江」の地名は、文章道(漢詩文・文学)によって朝廷に仕えた大江氏が開発したことに由来するといわれ、大江氏にまつわる伝説が若松神社や「ちりんさん」と呼ばれる野神社旧跡に残されています。

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、1190(建久元年)年に建部大社に武運長久を願ったと伝えられます。建部大社が、天皇の命令で全国平定に活躍した日本武尊を祭神としているからでしょう。

この時代にも、瀬田橋は戦乱の舞台となりました。後鳥羽上皇が鎌倉幕府打倒の兵をあげた1221(承久3)年の承久の乱、後醍醐天皇の南朝と足利尊氏もり立てた北朝が争った南北朝の内乱などで死闘がくりひろげられました。1350(観応元年)、東から攻め寄せた南朝軍によって、瀬田橋、瀬田周辺の宿所、建部大社、大江・大萱の宿や人家が焼き払われています。「大萱」の地名の由来は、広い萱野原であったこと、「大衙屋」と書いて奈良時代の役所があったこと、「大瓦屋」と書いて大きな寺院があったこと、などの説があります。

14世紀後半になると、琵琶湖でとれた魚介類を扱う粟津橋本供御人(粟津橋本御厨の住人)は、粟津・橋本はもちろんのこと、大江・大萱などにも住み、京都での販売を独占するようになりました。

安土桃山時代～江戸時代

戦国時代、瀬田橋の東に瀬田城を築いたのは、甲賀出身の山岡氏でした。1575(天正3)年、瀬田城主山岡景隆は木村次郎左衛門とともに、織田信長の命令によって瀬田橋をかけました。中島をはさんで東に大橋、西に小橋からなる今の橋は、この時に誕生しました。江戸時代のはじめに、瀬田橋が「瀬田夕照」として近江八景の一つに選ばれました。

瀬田城は、江戸時代のはじめには廃城となりますが、膳所藩主の別荘として1759(宝暦9)年に整備されました。また、山岡景隆の弟、山岡景祐が城主であったといわれる窪江城跡が、東レ瀬田事業所内に残されています。



↑ 近江八景全図 石山より見る 三代歌川広重画(大津市歴史博物館蔵)

江戸時代になると、この地域は膳所藩の領地となりました。1634(寛永11)年の「寛永石高帳」には、大萱村、大江村、勢多村がみられます。1701(元禄14)年の「元禄郷帳」では大萱村、大江村、神領村、橋本村となっていることから、江戸時代のはじめには神領村と橋本村をあわせて勢多村とよんでいたことがわかります。また、大江村の中には小学として久保江があり、史料の中に「久保江村」が登場します。

「元禄郷帳」にはこの4か村に加えて、1676(延宝4)年に開発のはじまった大萱新田(大萱村山内新田)がありました。また、1809(文化6年)に栗林新田が、幕末には神領村の丘陵部に野郷原新田が開かれました。現在は草津市の新浜村も、もとは大萱村の一部でした。

江戸時代に東海道が通った瀬田橋の架け替えは江戸幕府によって進められ、実際の工事は膳所藩が担当しました。瀬田橋の管理は、東詰の橋本村と神領村、西詰の鳥居川村にまかされました。橋の両側に番所を置き、昼夜の警備や清掃にあたったほか、火災や洪水など非常時への対応も事細かに定められていました。

東海道は、瀬田橋を渡ると建部大社の前で左に道を取り、近江国府跡から一里山を通過して草津宿に向かいました。一里山の名前は、東海道の一里塚があったことに由来します。陸路に対し、大津宿から琵琶湖を舟で矢橋に渡り、そこから草津宿へ向かうルートもありました。「急がば回れ」ということわざは、対岸と一直線で結ぶ矢橋の

渡しを利用して風の影響で遅れがちなので、大廻ではあっても瀬田橋経由の東海道を通った方が確実に着くということに由来しています。

瀬田川は琵琶湖から水が流れ出す唯一の川なので、大雨が降るとしばしば洪水を引き起こし、幕府は何度も川浚えを行いました。一方で、豊かな漁場でもあり、瀬田の名産として知られるセタシジミは、橋本村や大江村の漁師がシジミかき船を出して漁をしていました。

明治時代～現代

1872(明治5)年に廃藩置県により滋賀県が誕生し、1874(明治7)年には大萱村が南大萱村に、大萱新田が月輪村に改称し、野郷原新田は神領村と合併しました。1889(明治22)年の市制・町村制の施行により、橋本、神領、大江、南大萱、月輪、栗林新田が合併して、瀬田村が誕生しました。この年には、瀬田川鉄橋が竣工し、湖東鉄道(現、JR東海道線)の全線が開通しました。

1896(明治29)年におこった琵琶湖大洪水は、瀬田川の入口ともいえるこの地域に、大きな爪痕をのこしました。橋本の西光寺、南大萱の善念寺には、この時の琵琶湖の水位を示すという跡が残されています。一方で、1920(大正9)年に第1回東京帝国大学・京都帝国大学対抗競漕会が、瀬田川コースで開催されました。8人漕ぎのエイトの大会の最初といわれ、今に続く瀬田川のボート競技の歴史がはじまったといえます。

1927(昭和2)年に瀬田村は町制を施行し、瀬田町となりました。1938(昭和13)年から瀬田町大江で東洋レーヨン瀬田工場が操業を開始しています。しかし、この地域にも戦争の影響がおよんできました。1944(昭和19)年度、瀬田国民学校五年智組で1年を通して記された絵日記(「瀬田国民学校絵日記」)は、子供たちの目でみた戦時下の姿を今に伝えています。

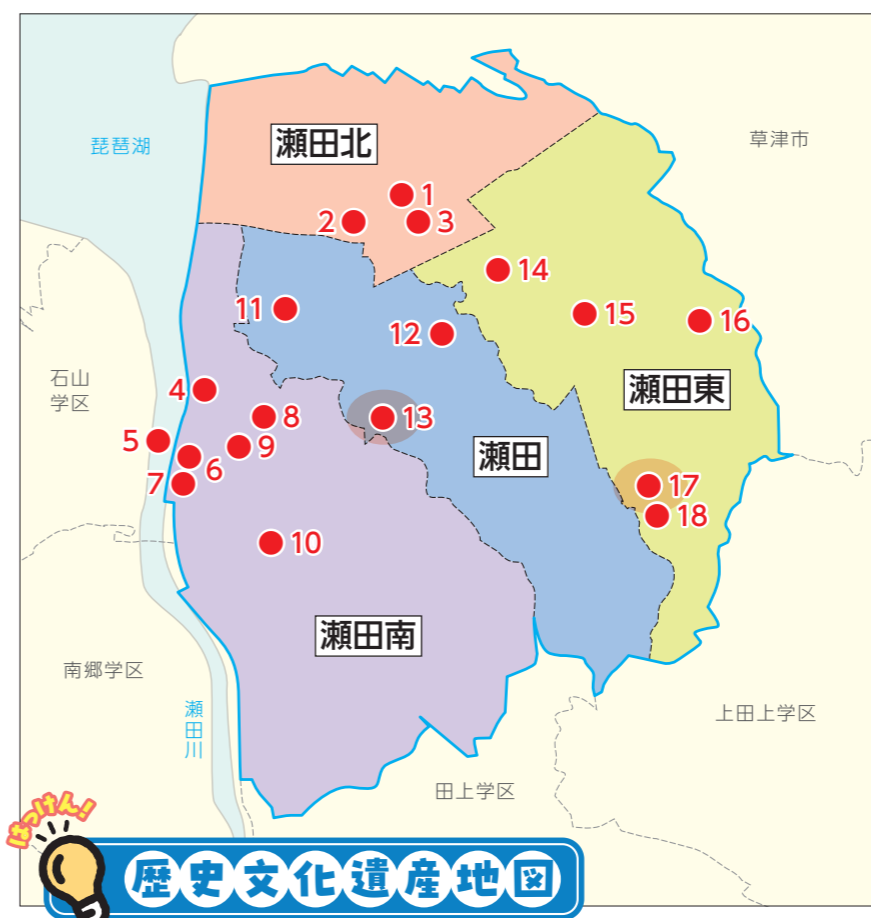
戦後になると、1955(昭和30)年、瀬田町は上田上村と合併して、新瀬田町となりました。上田上村は歴史的には田上(下田上)とつながりが深かったのですが、人や物の流れは瀬田橋を渡って石山駅周辺につながっていたからです。

1959(昭和34)年に瀬田町は工場誘致条例を出し、多くの工場が建設されるようになりました。1961(昭和36)年からは、滋賀県開発公社によって湖岸の埋め立てが進められ、大江の地先に玉野浦、南大萱の地先に萱野浦が誕生しました。

1967(昭和42)年、瀬田町は、堅田町とともに大津市と合併しました。2年後の1969(昭和44)年には東海道線の瀬田駅が開業し、この地域の発展の原動力となりました。

瀬田橋は、明治以降も瀬田川の東西を結ぶ幹線でしたが、1950(昭和25)年、今までの旧東海道にかわって山手に新道(現、国道1号)が開通し、唐橋の上流約500mの場所に瀬田川大橋が架けられました。さらに、名神高速道路、東海道新幹線、京滋バイパスと主要な道路や鉄道が通り、名神高速道路では、瀬田西と瀬田東のインターチェンジが開設されました。1979(昭和54)年には、大津市から草津市にまたがる瀬田丘陵に、びわこ文化公園都市の建設が始まり、現在では多くの公共施設や大学、高等学校などが集まっています。

交通の利便性から、開発が進み人口も増えました。1967(昭和42)年に大津市と合併したときの人口は約1万7千人でしたが、2025(令和7)年4月には約6万5千人と、約3.8倍となっています。この間、瀬田小学校から分かれて1976(昭和51)年に瀬田南小学校、1980(昭和55)年に瀬田東小学校、1989(平成元)年に瀬田北小学校が開校しています。中学校についても、1983(昭和58)年に瀬田中学校から分かれて瀬田北中学校が開校しました。



| NO | 歴史文化遺産名称 | 場所 |
|----|--------------------------------|---------|
| 1 | 萱野神社 | 大萱二丁目 |
| 2 | 織部古墳 | 大萱三丁目 |
| 3 | 瀬田駅 | 大萱一丁目 |
| 4 | 西光寺の洪水石標 | 瀬田一丁目 |
| 5 | 瀬田橋(瀬田唐橋) | 瀬田一丁目 |
| 6 | 雲住寺・龍王宮秀郷社 | 瀬田二丁目 |
| 7 | 瀬田城跡 | 瀬田二丁目 |
| 8 | 建部大社(船幸祭) | 神領一丁目 |
| 9 | 堂ノ上遺跡 | 神領三丁目 |
| 10 | 瀬田廃寺 | 野郷原一丁目 |
| 11 | 若松神社(大江の鉾振り) | 大江二丁目 |
| 12 | 野神社旧跡碑(ちりんさん) | 大江四丁目 |
| 13 | 近江国府跡 国庁跡 惣山遺跡 青江遺跡 中路遺跡 | 大江六丁目ほか |
| 14 | 一里塚跡 | 一里山二丁目 |
| 15 | 山ノ神遺跡 | 一里山三丁目 |
| 16 | 月輪大池 | 月輪四丁目 |
| 17 | びわこ文化公園都市 (文化ゾーン) | 南大萱町ほか |
| 18 | 源内峠遺跡 | 南大萱町 |

(●は当地域に関すること)

歴史文化遺産 地図番号 2 織部古墳

大萱三丁目 古墳時代



織部古墳から出土した三角縁神獣鏡 (東京国立博物館蔵) (出典: ColBase)

1912(明治45)年に南大萱の織部(今の萱三丁目)で古墳が発見されました。約1700年前の古墳時代前期のもので、直径約30m、高さ3mの円墳と考えられています。この古墳からは、鉄の剣や斧の他に、邪馬台国の卑弥呼が中国の魏という国からもらったとされる三角縁神獣鏡が出土しました。同じ型で作った鏡が奈良県や京都府、岡山県などで見つっています。ただし、三角縁神獣鏡は中国では見つっていないため、日本でつくられたという意見もあります。古墳はすでに削られて残っていませんが、出土品は東京国立博物館で保管されています。

| 早期 | 前期・中期 | 後期 |
|---------------------------------|-------------------------|--|
| ●善念寺貝塚がつくられる 滋賀里遺跡などで集落が営まれる | 南滋賀遺跡などで 方形周溝墓がつくられる | 高峯遺跡など湖西南部に高地性集落 ができ、中畑田遺跡などで集落が まれる |

| 前期 | 中期 | 後期 |
|---|---|---|
| ●織部古墳がつくられる 壺笠山古墳、皇子山一号墳、和邇大 塚山古墳などがつくられる | 膳所茶白山古墳がつくられる 西羅古墳、真野古墳、木の岡古墳群 などがつくられる | ●若松神社境内古墳がつくられる 鉄製武器類が副葬された春日山古 墳群、曼陀羅山古墳群などがつくら れる 坂本から錦織地域に百穴古墳群や 穴太野添古墳群など渡来系氏族の 群集墳がつくられる |

歴史文化遺産 地図番号 1 萱野神社

大萱二丁目 古墳時代～



萱野神社

社伝によると、彦坐王の子孫である治田連という人が、栗田郡の開発にあたって先祖である開化天皇を462年にまつたことがはじまりとされています。江戸時代には膳所城主の信仰も厚く、境内や田などの領地が与えられましたが、境内は1889(明治22)年の東海道線の建設によって分断され、社殿は移築されました。その後も1969(昭和44)年の東海道線の複々線化などにより、周囲の景観は大きく変化しています。

歴史文化遺産 地図番号 11 若松神社境内古墳

大江二丁目 飛鳥時代



若松神社境内古墳のなかに復元された棺

若松神社境内古墳は、直径約15m、高さ約4.0mの円墳です。1966(昭和41)年に発掘調査が行われ、埋葬施設として横穴式石室をもつ古墳だとわかりました。横穴式石室は長さ約2.7m、幅約1.8mで、陶器でつくられた棺(陶棺)が安置されていました。また、金環・大刀・須恵器と一緒に添えられており、7世紀初めごろにつくられた古墳だと考えられます。出土品は滋賀県が保管しており、現地では復元された棺を見ることができます。

歴史文化遺産 地図番号 15 山ノ神遺跡

一里山三丁目 飛鳥時代



山ノ神遺跡から出土した鴟尾 (大津市歴史博物館保管)

飛鳥時代の瀬田丘陵は、須恵器(窯で焼いた硬質の土器)や鉄の一大生産地でした。山ノ神遺跡では、これまでの発掘調査で、須恵器等を焼いた窯跡4基と、工房の跡と考えられる掘立柱建物6棟が見つかりました。窯跡の1つからは、多くの須恵器とともに鴟尾(古代寺院の屋根飾り)が4基見つかり、古代の須恵器や大型の鴟尾を生産していた場所だとわかりました。その年代から、大津宮に関わる遺跡と考えられ、古代国家を支えた重要な遺跡として評価されています。この遺跡は「瀬田丘陵生産遺跡群」の1つとして国の史跡に指定され、4基の鴟尾は重要文化財に指定されました。

歴史文化遺産 地図番号 18 源内峠遺跡

南大萱町 飛鳥時代



現地に復元された製鉄炉

源内峠遺跡は飛鳥時代の製鉄遺跡です。発掘調査では、4基の製鉄炉、鉄塊や鉄滓(製鉄の際に生じる不純物)といった製鉄に関連する遺物などが発見されました。なかでも製鉄炉は長さ2.0~2.5mで、この時代の製鉄炉としては最大の規模です。さらに製鉄に係る遺物は総重量で約15tもの量が出土しました。これらのことから、源内峠遺跡では鉄素材の大量生産が行われたことがわかります。この遺跡は「瀬田丘陵生産遺跡群」の1つとして、国の史跡に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 11 若松神社

大江二丁目 奈良時代～



若松神社

社伝によると、777(宝亀8)年の大干ばつで琵琶湖の水が枯れたとき、光仁天皇が武甕槌命と齋主命という神様から水があふれる呪力を持つ玉を与えられる夢を見たところ、すぐに雨が降りました。これにより齋主命をまつたことが始まりといえます。また、長和年間(1012~17)に大江匡衡がこの地に住んでいた際、その娘である江徒徒がとある女房に宿を貸したところ、その女房が蛇となり、若松が生じたことから、そこに社を建てて若松の宇賀大明神(蛇の神)としてまつるようになったといえます。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-----------|------------|--------------------------|------------|-----------------|--------|------------------------|-------------------|--------|-------------------|----------------|-------------------|-------|--------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------|--------------------------------------|-------|-----|----------------------------------|----------------|------------------|------|------|---------------------|-----------|-----|---------------------|-----|
| 七二〇 | 七二二 | 七二〇 | 前七四〇後 | 七五二 | 七五五 | 七五九 | 七六四 | 七六八 | 七八四 | 七八六 | 七九四 | 八〇四 | 八〇五 | 八〇六 | 八一五 | 八五七 | 八六八 | 九三四 | 九三五 | 九四六 | 九九三 | 一〇一六 | 一〇九五 | 二五六 | 二五九 | 二六七 | 二七五 | 二八四 | 二八五 | 二九〇 |
| 平城京へ遷都 | 『古事記』ができる | 『日本書紀』ができる | | 東大寺大仏の開眼供養 | | 保良宮の造営 | | | 長岡京へ遷都 | | 平安京へ遷都 | | 最澄が帰国 | 空海が帰国 最澄が天台宗を開く | | | | | 平将門の乱 | | | 藤原道長が政治の実権をにぎる | | 保元の乱 | 平治の乱 | 平清盛が太政大臣となる | 法然が浄土宗を開く | | 平氏滅亡 壇ノ浦の戦い | |
| | | | ●近江国庁がおかれ、近江国府関連施設が整備される | | ●建部大社が瀬田の地に移るとい | | ●藤原仲麻呂の乱がおこる、瀬田橋が戦場となる | ●勢多庄が奈良の西大寺に施入される | | 桓武天皇が滋賀郡に梵釈寺を建立する | 近江国の古津を大津と改称する | ●山科駅を廃し勢多駅に駅馬を加える | | 日吉社が天台守護の護法神となる | 嵯峨天皇が唐崎に行幸し、梵釈寺で僧永忠が茶を献じる | 近江国の相坂(逢坂)・大石・龍華の三か所に開所をおく | 円珍が天台座主となり、園城寺を与えられる | ●この頃成立の「倭名類聚抄」に粟太郎五郷の一つとして「勢多郷」がみられる | | | 逢坂山の坂の守護神である園蟬丸神社に蟬丸霊が合祀されるといわれる | | 延暦寺より円珍門徒が園城寺に移る | | | 比叡山の僧兵が日吉神輿を押し立てて強訴 | | | ●源頼朝が建部大社に武運長久を祈るとい | |
| 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ●粟津橋本御厨が莊園として成立する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(●は当地域に関すること)

歴史文化遺産 地図番号 5 瀬田橋 (瀬田唐橋)

瀬田一丁目 飛鳥時代～



現在の瀬田唐橋

瀬田橋は、琵琶湖から唯一流れ出る河川である瀬田川にかかる古代以来の橋です。古くは『日本書紀』などの歴史書にも橋についての記述があります。1987～89(昭和62～平成元)年度の発掘調査では、現在の橋の場所から南に約80mの地点で、木製の橋脚遺構が確認されました。この遺構が古代の瀬田橋だということが明らかとなり、朝鮮半島の技術を用いてつくられた橋脚だと考えられるようになりました。古代以降、橋は承久の乱などの度重なる戦火等により何度も焼失するものの、織田信長の時代に大橋・小橋の2つの橋が架かる現在の状況に整備されました。

古代より架かる瀬田橋は日本三大名橋の一つに数えられ、近江八景「瀬田夕照」の一つとしても名高い橋です。また、「急がば回れ」のことわざの語源ともなった舞台としても有名です。



第一橋脚台材検出状況(滋賀県立琵琶湖博物館提供)

歴史文化遺産 地図番号 8 建部大社

神領一丁目 奈良時代～



建部大社

社伝によると、景行天皇46年に日本武尊の妃である布多遲比売命が神前郡建部郷(東近江市)に日本武尊の霊をまつたことが始まりといわれ、何度か場所を移したのちに現在の場所に建てられました。近江国の一宮で古くは建部大明神などと呼ばれ、『延喜式』神名帳にも記載される大社です。多くの人々が訪れ、源頼朝も参詣したと伝わります。江戸時代には膳所藩から領地が与えられています。船に乗せた神輿が瀬田川を下る8月の「船幸祭」は、大津三大祭のひとつとして盛大に行われています。

歴史文化遺産 地図番号 10 瀬田廃寺

野郷原一丁目 奈良時代～



「瀬田廃寺址」碑

近江国府に関連する寺院の跡で、一時は近江国分寺であったと考えられています。1959(昭和34)年に金堂や塔の発掘調査が実施され、その結果、南北に塔、金堂が一直線に建ち並んでいたことがわかりました。残念ながら金堂跡は発掘調査後、工事によって無くなりましたが、塔跡には現在でも約1200年前の礎石が残っています。

2000年代に行われた数度の発掘調査では、巨大な南門、築地塀、講堂の地下構造、釣鐘をつくっていた遺構などがみつかりました。

歴史文化遺産 地図番号 9 堂ノ上遺跡

神領三丁目 奈良時代～



堂ノ上遺跡で出土した瓦(滋賀県産)

県立瀬田工業高等学校の北側の丘陵上にある遺跡です。発掘調査によって、奈良時代～平安時代の瓦を葺いた礎石建物や掘立柱建物が確認されました。ここで出土した瓦は近江国庁跡などで出土した瓦と同じ「飛雲文」と呼ばれる文様です。さらに「承和十一年六月」と書かれた瓦が出土し、844(承和11)年には建物があつたことがわかりました。瀬田地域には官道の東山道と東海道が通ることから、この遺跡は情報伝達のために走る馬を乗り換える場所であった古代の「駅家」の可能性があるとされています。この遺跡は国の史跡に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 6 俵藤太の伝説(雲住寺・龍王宮秀郷社)

瀬田二丁目 平安時代～



雲住寺

俵藤太とは、平安時代中期に実在した藤原秀郷という武將で、武勇に優れた人として知られます。俵藤太の伝説は、鎌倉時代後期から室町時代のようなすを描く『太平記』に見られます。それによれば、瀬田橋を通りかかった俵藤太は、琵琶湖に住む龍神から三上山に住む百足を退治するよう依頼され、弓矢で退治したといひます。

唐橋のたもとにある龍王宮秀郷社(橋守神社)には、龍神と藤原秀郷がまつられており、その隣の雲住寺には、藤原秀郷にまつわる宝物が今も大切に保管されています。

Timeline table with columns for year (e.g., 一六〇三, 一八七三), event (e.g., 徳川家康が征夷大将軍となる), and detail (e.g., 大津祭狸山が建造される).

(●は当地域に関わること)

歴史文化遺産 地図番号 5 瀬田橋の架け替え

瀬田一丁目 江戸時代～



瀬田唐橋の擬宝珠

現在の瀬田唐橋の東詰から瀬田川沿いに100mほど下流に進むと、龍王宮秀郷社(橋守神社)があります。百足退治の伝説で知られる俵藤太と龍神(龍宮乙姫)をまつる2つの社と、その間に太い木材があります。これは、瀬田橋を架け替えたとき、古い橋脚を伐ってまつったものです。また、架け替えが終わると、橋の古い材木を使って木像が彫られ、関係者に配られました。架け替えによって橋の欄干の擬宝珠(柱の上の玉ねぎ型の飾り)が新しくなると、そこには架け替えの年や関係した人の名前が彫られます。今に残る擬宝珠のなかには、江戸時代の膳所藩主の名前を刻んだものもみられます。

地域の芸術 近江八景「瀬田夕照」

江戸時代



歌川広重「魚米板」 近江八景「瀬田夕照」 (大津市歴史博物館蔵)

近江八景は、中国の景勝地である「瀟湘八景」になぞらえて、近江南部からえらばれた8つのすばらしい景色のことです。江戸時代初めごろに公家の近衛信尹が膳所城から見える範囲で選んだとする説が有力となっています。近江八景は、屏風絵や絵画作品の画題として取り上げられ、初代歌川広重や葛飾北斎などが浮世絵として出版したことによって多くの人に知られるようになりました。近江八景のうち「瀬田夕照」を描いた浮世絵は、夕焼けが照らし出す湖岸の風景だけでなく、瀬田橋や行き交う人々や船の様子を表しています。

歴史文化遺産 地図番号 14 一里塚跡

一里山二丁目 江戸時代



「一里塚跡」碑

一里塚とは、江戸幕府が道の両脇に設けた塚です。江戸の日本橋をスタートとして、東海道等の街道沿いに一里(約4km)ごとに設置されました。一里山二丁目には地元有志による一里山塚の碑が建てられており、かつてここに塚があったことを示しています。一里山から西に行くと粟津、東に行くと草津市の野路に一里塚がありました。塚は旅人たちの旅行日程の目安となり、また日差しが強い日には木陰の休息所となりました。この一里塚の存在が、一里山の地名の由来となっています。

歴史文化遺産 地図番号 16 月輪大池

月輪四丁目 江戸時代～



月輪大池

この池は、江戸時代には月輪池と呼ばれていました。名前の由来は、池に映った美しい月の姿から名づけられたとも、鎌倉時代初めに関白をつとめた九条兼実が「月輪殿」と呼ばれ、その荘園内にあったからとも言われます。京都の金座、銀座(金貨や銀貨をつくった役所)の役人であった長野宗兵衛など6人は、月輪池の水を引いて新田開発を進め、1676(延宝4)年に膳所藩から3年間の年貢免除を認められました。はじめは、大萱新田と呼ばれていましたが、1874(明治7)年に月輪村と名前をかえました。1977(昭和52)年には大規模な整備工事が完成し、今も水源としてまわりの田畑をうるおしています。

地域の歴史 旧東海道

江戸時代



神領交差点周辺(北から)(写真左の道が東海道)

江戸時代の東海道は今も残りますが、道の幅も広くなり、新しくできた道につながるなど、大きく変わっています。それでも、昔の道の跡が残っている所があります。石山方面から瀬田唐橋を渡って250mほど進むと、神領の交差点があります。右に曲がって名神高速道路の瀬田西インターチェンジへ通じる道、そのまま建部大社へ向かう道、左ななめに国道1号に合流する道に分かれます。1895(明治28)年の地図をみると、国道1号への道はなく、建部大社方面に少し進んだ先で、左に直角に曲がる道が見えます。この道こそが、江戸時代の東海道にあたります。

歴史文化遺産 地図番号 4 西光寺の洪水石標

瀬田一丁目 明治時代～



西光寺の洪水石標

1896(明治29)年9月、滋賀県各地で豪雨が続き、琵琶湖の水位が急上昇して、湖岸の地域に浸水し大きな被害をもたらしました。のちに「琵琶湖大洪水」と呼ばれる水害です。大津市内では、通常の水位から約3mも上昇した記録もあります。瀬田地域には、浸水の高さを示したのとして西光寺の石標や善念寺の石垣があります。

| | | |
|------|----------------------|----------------------------------|
| 一九二二 | 京都二条大橋・大津川の間に京津電車が開通 | ●一回東京・京都帝国大学対抗競漕大会が瀬田川コースでひらかれる |
| 一九二四 | 第一次世界大戦に参戦 | ●大津電車の浜大津・堂谷（現京阪石山寺）間が開通 |
| 一九二八 | シベリア出兵（22） 米騒動 | ●第一回東京・京都帝国大学対抗競漕大会が瀬田川コースでひらかれる |
| 一九三〇 | 全国水平社結成 | ●滋賀県立アイスアリーナが開設される |
| 一九三二 | 関東大震災 | ●大津市が中核市へ移行 |
| 一九三三 | 普通選挙制 治安維持法の成立 | ●大津市と志賀町が合併 |
| 一九三四 | 満州事変 | ●大津市が古都指定 |
| 一九三六 | 日中戦争 | ●大津市が古都指定 |
| 一九三七 | ●瀬田町制施行 | ●大津市が古都指定 |
| 一九三九 | ●瀬田町と上田上村が合併する | ●大津市が古都指定 |
| 一九四〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九四九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九五九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九六九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九七九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九八九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 一九九九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇六 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇七 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇八 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇〇九 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一〇 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一一 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一二 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一三 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一四 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |
| 二〇一五 | ●大津市と志賀町が合併 | ●大津市が古都指定 |

●は当地域に関わること

地域の歴史

瀬田国民学校絵日記 昭和十九年五年智組



1945年2月15日の絵日記 (大津市歴史博物館蔵)

太平洋戦争の真っ只中であつた1944(昭和19)年4月から1945(昭和20)年3月までの1年間に、瀬田国民学校(今の瀬田小学校)五年智組の女子児童たちが描いた学級日記です。戦時下の学校や子どもたちの生活が、188日分にわたって記録されました。出征する兵士の見送りに行ったこと、学童疎開のために瀬田に来た大阪の子どもたちのこと、警戒警報と空襲警報が鳴るたびに避難しなければならなかったことなどが記されており、戦争の時代の瀬田の暮らしを知ることができます。この絵日記は、大津市の文化財に指定されています。

歴史文化遺産 地図番号 3

瀬田駅

大萱一丁目 昭和時代～



開業時の瀬田駅の様子(1969年) (大津市歴史博物館蔵)

大津市内のJR東海道線の駅のうち、最も新しい駅が瀬田駅で、1969(昭和44)年8月12日に開業しました。瀬田駅ができる前は、石山駅と草津駅の間には駅がなく、明治30年代から瀬田の人々は駅の設置を要望していました。駅は、東海道線の草津-京都間の複々線化を機会に設置されました。駅ができたことをきっかけに、周辺にはその後、びわこ文化公園(図書館や美術館)のほか、多くの住宅が建設されていきました。

地域の行事

建部大社の船幸祭



船幸祭の様子

8月1日から始まる建部大社の船幸祭は、8月17日の本祭(船渡御)でクライマックスをむかえます。本殿で出御祭がおこなわれたあと、大小4基の神輿が神社前から瀬田唐橋東詰まで移動し、御座船に移ります。御座船は船2艘を木の板で連結させ、船の四方に斎竹を立て、しめ縄を張りめぐらせた特別な船です。御座船が供奉船を伴って唐橋を出発し、瀬田川を約4km下ります。瀬田川洗堰近くの御旅所に着くと供え物が献じられ、その後、瀬田川をさかのぼって神社に戻ります。

地域の行事

大江の鉦振り

大江二丁目



鉦振りの様子

5月5日、若松神社の春祭りがおこなわれます。最大の見どころは、神輿渡御の前に大・中・小計3基の鉦を振りながら拝殿の周囲を回る神事で、鉦振りと呼ばれます。この鉦は全長約5mにも及び、鉦の先に着けた鈴を鳴らしながら歩きます。また、御旅所でも鉦振りが披露されます。鉦が登場する祭礼行事は京都市で見られますが、大津市内では若松神社のみに鉦振りが伝えられており、滋賀県の無形民俗文化財に選択されています。

地域の食文化

セタシジミ



シジミ漁の様子(1957年) (大津市歴史博物館蔵)

もともとは琵琶湖水系にしか生息していない固有種の貝です。瀬田川周辺でたくさん捕れたことからこの名前がつけました。昔からよく食べられた食材で、縄文時代の人々が食べた貝殻が捨てられた石山貝塚でも、出土した貝の多くがセタシジミです。昭和40年代ごろまでは、岸辺にもたくさん生息し、セタシジミを使ったみそ汁やしぐれ煮、シジミ飯等は、家庭の味として古くから親しまれてきました。現在では、セタシジミの漁獲量は減少しており、稚貝の放流や漁獲量を調整して保護に努めています。

歴史文化遺産 地図番号 17

びわこ文化公園都市(文化ゾーン)

南大萱町ほか 昭和時代～



びわこ文化公園都市(1998年)

1979(昭和54)年、滋賀県は大津市と草津市にまたがる瀬田丘陵を「びわこ文化公園都市構想区域」と位置づけ、整備をはじめました。大津市では、文化・芸術・公園施設として、滋賀県立近代美術館(現滋賀県立美術館)、滋賀県立図書館、滋賀県営都市公園びわこ文化公園、スポーツ施設として滋賀県立アイスアリーナ、滋賀アリーナ、学校・教育・研究施設として滋賀医科大学、龍谷大学瀬田キャンパス、滋賀県立東大津高等学校といった施設があります。自然豊かな環境の中で、文化、スポーツに身近にふれる場所として、多くの人々に親しまれています。



凡例

- ・本書は地域学習のため、各学区の歴史や歴史文化遺産について説明したものです。
- ・年表は日本のできごと、大津市のできごとを示し、本書に関わることに ついては印をつけています。
- ・執筆は大津市市民部文化財保護課および大津市歴史博物館職員が分 担し、編集は文化財保護課にて行いました。
- ・本書の作成にあたり、各文化財所有者の方々にご協力いただきました。

表紙写真 上段：瀬田唐橋、中段：山ノ神遺跡出土の鵝尾（大津市歴史博物館蔵）、 下段：シジミ漁の様子（大津市歴史博物館蔵）

裏表紙写真 上段：大江の鉾振り、中段：瀬田国民学校絵日記（大津市歴史博物 館蔵）、下段：近江国庁跡で出土した飛雲文鬼瓦（滋賀県蔵）

- ・総論中の太字については、後のページで解説しています。
- ・掲載画像は、特記のあるもの以外は大津市の撮影または所蔵です。

発行／大津市

発行日／令和8年3月27日

印刷・デザイン／株式会社富士印刷

| | | |
|-----|---|---|
| 小学校 | | |
| 年 | 組 | 番 |
| 名 | | |
| 前 | | |